

R6事務事業点検評価シート

No. 1

推進項目	学校教育の充実	所管課係名	学務課学校教育係		
事務事業名	学習サポートプログラム事業				
・開始年度	平成23年度	・見直予定(終了)年度			
年度目標(目的) * 目標値の設定ができれば記入					
児童生徒の確かな学力を育むため、放課後や長期休業中における学習サポートを実施。 学力定着には家庭学習の習慣が必要であることから、保護者の理解と協力を促す取り組みとして、各学校で家庭学習の手引きを作成し配布。					
内容(実績) * 主催(主体)、期日(期間)、会場(対象範囲)、参加実績等を記入 * 目標値の設定があれば、実績値及び達成率も記入					
・小学校の放課後教室及びチャレンジ深川は、ボランティア講師がサポートし、中学校放課後教室は、民間塾に委託して実施している。 ・放課後教室 小学校(6校・全学年)6月～3月 276名(参加率41.2%、前年度46.7%)※延べ102回 中学校(2校・3年生)8月～2月 73名(参加率64.6%、前年度60.3%)※各校10回ずつ ・チャレンジ深川(長期休業期間に実施) 夏 7/25～ 8/1(各校3日間) 6小学校 348名(参加率51.9%、前年度51.1%) 冬 12/24～ 1/10(各校3日間) 6小学校 298名(参加率44.5%、前年度51.7%) R5 冬のみ、中学生ボランティアを試験導入 3小学校に17名が参加 R6 中学生ボランティアを本格導入 5小学校に夏16名、冬13名が参加 ・家庭学習の手引きを各校で作成・配布し、家庭学習の習慣化を図った。					
・R6予算額	4,425千円	・R5予算額	4,402千円	・R4予算額	4,200千円
・R6決算額	3,415千円	・R5決算額	3,742千円	・R4決算額	3,823千円
項目別点検評価 * A: 順調である、B: おおむね順調である、C: 一部困難な問題点(課題)がある、D: 困難な問題点(課題)がある					
・達成度	B	理由: 放課後教室は中学校の参加率が3年連続で上がったが、小学校の参加率が下がった。チャレンジ深川は、冬の参加率が低くなった。			
・効果度	A	理由: 参加者及び保護者からのアンケート調査の結果から、学習意欲の向上、家庭学習に対する保護者の理解と協力の促進に寄与している。			
今後の取組み					
・問題点(課題)	・小学校の放課後教室及びチャレンジ深川の継続には、ボランティア講師の確保が必須となり、今後も人材確保が課題となる。 ・また、中学校放課後教室については、委託先の人手不足から、実施形態の見直しが求められている。				
・改善策	・ボランティアの状況に応じた開催日数や実施内容、形態などを検討する。 ・チャレンジ深川の中学生ボランティアの導入により、一般ボランティアの不足を補うことができおり、中学生ボランティアを継続する。 ・また、中学校放課後教室は、可能な限り現在の各校での対面形式での実施を継続できるよう調整を行う。				
総合評価 * ①: 充実・拡大、②: 現状維持(見直し含)、③: 統合・代替、④: 移管・縮小、⑤: 休止・廃止・完了を含めて記入					
②	理由: アンケート調査からも本事業の効果は認められているが、チャレンジ深川については、冬は大雪等による児童生徒や講師の安全確保が難しく、参加率も低くなっていることから、令和7年度より夏のみの実施とする。				

R6事務事業点検評価シート

No. 2

推進項目	学校教育の充実	所管課係名	学務課学校教育係		
事務事業名	教育支援センター運営(旧適応指導教室設置)				
・開始年度	平成12年度	・見直予定(終了)年度			
年度目標(目的) * 目標値の設定ができれば記入					
何らかの理由で学校に行きにくくなった児童生徒に対し、将来の社会的自立支援に向けて、きめの細かい指導や支援を行う多様な学びの場として設置。					
内容(実績) * 主催(主体)、期日(期間)、会場(対象範囲)、参加実績等を記入 * 目標値の設定があれば、実績値及び達成率も記入					
○設置場所 深川市健康福祉センター内 ※令和6年4月移転 ○指導体制 室長(SSW兼務)、指導員2名 ○指導方針 ・当該児童生徒と指導員の信頼関係を基盤としながら心豊かに学ぶ場とする。 ・体験的な活動や交流活動を通しコミュニケーション力の育成を目指す。 ・保護者や学校と連携を図り、将来の社会的自立を目指す。 ・週に1回程度、軽運動を実施して体力の向上を図る。 ○在籍者数 R4年度 7名(小学生4名、中学生3名) R5年度 10名(小学生3名、中学生7名) R6年度 10名(小学生4名、中学生6名) ※予算及び決算額は、人件費を除いたもの					
・R6予算額	223千円	・R5予算額	328千円	・R4予算額	295千円
・R6決算額	165千円	・R5決算額	297千円	・R4決算額	288千円
項目別点検評価 * A: 順調である、B: おおむね順調である、C: 一部困難な問題点(課題)がある、D: 困難な問題点(課題)がある					
・達成度	A	理由: 令和6年度に、設置場所を総合福祉センターから健康福祉センターに移転したことで、児童生徒の受入れ環境の拡充及び空調などの環境整備の充実を図った。また、名称を「適応指導教室しらかば教室」から「教育支援センターしらかば教室」に改めた。			
・効果度	A	理由: 指導員と接することでコミュニケーション力の向上が図られるとともに、学校からのリアルタイムでの授業配信の視聴により学力向上が見られるなど、将来の社会的自立に向けた支援を行うことができた。			
今後の取組み					
・問題点(課題)	・不登校の児童生徒が増加傾向にあることから、児童生徒への支援に加え、その保護者が必要とする情報の提供など、教育支援センターに求められる機能や役割が広がっている。				
・改善策	・不登校の児童生徒やその保護者の個々のニーズに応じた支援を、関係機関等と連携して継続的に行う。				
総合評価 * ①: 充実・拡大、②: 現状維持(見直し含)、③: 統合・代替、④: 移管・縮小、⑤: 休止・廃止・完了を含めて記入					
②	理由: 多様な学びの場として、希望する児童生徒の受け入れができるよう、運営を継続する。				

R6事務事業点検評価シート

No. 3

推進項目	学校教育の充実	所管課係名	学務課学校教育係		
事務事業名	深川市特別支援教育推進委員会運営				
・開始年度	平成19年度	・見直予定 (終了)年度			
年度目標(目的) * 目標値の設定ができれば記入					
障がいのある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた、適切な教育支援を図るため、教育委員会が医学、心理学、教育関係者、児童福祉関係者、学識経験者の中から委嘱した委員により組織し、教育委員会の諮問に応じて教育措置に関する意見の答申及び小中校内委員会や特別支援教育コーディネーターへの支援等を行う。					
内容(実績) * 主催(主体)、期日(期間)、会場(対象範囲)、参加実績等を記入 * 目標値の設定があれば、実績値及び達成率も記入					
○特別支援教育推進委員会では、教育委員会の諮問に応じて、障がいのある児童生徒の障がいの種類、程度等の判断を行い、教育措置に関する意見を答申する。また、推進委員会内に特別支援教育コーディネーターと専門調査委員を設置し、教育相談対象者の決定については、専門調査委員が調査を行い、教育相談は特別支援コーディネーターが行っている。 ○教育的ニーズに対応するための教員への研修を実施する。 ・教育措置の審議対象者数 R4 71名(全児童生徒数の6.7%) R5 69名(全児童生徒数の6.7%) R6 83名(全児童生徒数の8.3%) ・教育相談(心理検査・親子面談)対象者数 ※上記のうち教育相談の対象者数 R4 54名(全児童生徒数の5.1%) R5 38名(全児童生徒数の3.7%) R6 42名(全児童生徒数の4.2%)					
・R6予算額	477千円	・R5予算額	477千円	・R4予算額	401千円
・R6決算額	279千円	・R5決算額	167千円	・R4決算額	241千円
項目別点検評価 * A: 順調である、B: おおむね順調である、C: 一部困難な問題点(課題)がある、D: 困難な問題点(課題)がある					
・達成度	B	理由: 教育措置に関する意見は円滑に答申できたが、研修は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった以降、再開することができていない。			
・効果度	A	理由: 教育措置に関する意見を答申することで、教育的ニーズに応じた特別支援学校や特別支援学級、通級等による支援ができた。また、当該児童生徒の教育相談時に、在籍する学校担当者が同席することで、その後の対応にも繋げることができた。			
今後の取組み					
・問題点(課題)	・人手不足により有識者の専門職を配置できていないことから、教員が特別支援教育コーディネーターを担っている。 ・また、教育相談対象者数が年々増えていることもあり、教員の負担が非常に大きくなっている。				
・改善策	・人材確保が必要だが、当面、現体制での分担等で効果的・継続的な運営を行う。				
総合評価 * ①: 充実・拡大、②: 現状維持(見直し含)、③: 統合・代替、④: 移管・縮小、⑤: 休止・廃止・完了を含めて記入					
②	理由: 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた、適切な教育支援を図るために必要な業務であり、今後も継続した運営を行う。				

R6事務事業点検評価シート

No. 4

推進項目	学校教育の充実	所管課係名	学務課管理係		
事務事業名	公立高等学校の魅力づくり事業(交付金事業)				
・開始年度	平成26年度	・見直予定(終了)年度			
年度目標(目的) * 目標値の設定ができれば記入					
<p>子ども達の進路選択の幅を拡げるとともに、地域に必要となる人材の定着を図る上で深川西高校及び深川東高校両校の存続が必要であることから、入学者確保に向けた両校の魅力づくりに資する取り組みに支援する。</p> <p>目標とする入学者数は、深川西高校81人以上(3学級の維持)、深川東高校 生産科学科10人以上(1学級の維持)としている。</p>					
内容(実績) * 主催(主体)、期日(期間)、会場(対象範囲)、参加実績等を記入 * 目標値の設定があれば、実績値及び達成率も記入					
<p>市内公立高校に通う生徒を支援する両校の団体(PTA)に対し、資格取得・研修等に係る費用や通学交通費の一部を助成したほか、令和4年度から新たに深川西高校の学力向上に関するスタディサプリの利用料助成を追加支援している。</p> <p>■深川西高校 交付額 5,032千円 ①将来の目標・意識付けに関する事業(カタリ場) 821千円 ②模擬試験・検定等受験料助成事業 1,856千円(延726名) ③学力向上に関する事業 50千円(延11名) ④広報活動 981千円、⑤通学交通費助成事業 1,324千円(74名)</p> <p>■深川東高校 交付額 2,222千円 ①生徒の研修等に関する事業 102千円 ②研修・検定・資格取得養成講座等受講料助成事業 1,394千円(延486名) ③学力向上に関する事業 69千円 ④広報活動 84千円、⑤通学交通費助成事業 573千円(26名)</p>					
・R6予算額	7,560千円	・R5予算額	7,560千円	・R4予算額	7,560千円
・R6決算額	7,254千円	・R5決算額	7,333千円	・R4決算額	7,269千円
項目別点検評価	* A: 順調である、B: おおむね順調である、C: 一部困難な問題点(課題)がある、D: 困難な問題点(課題)がある				
・達成度	B	理由: 深川西高校及び深川東高校と連携を図ることで、生徒や学校のニーズを踏まえた支援を行うことができたが、目標としている入学者数には届かなかった。 R7入学者 西高64人、東高19人(R7より生産科学科のみ) R6入学者 西高74人、東高26人(うち生産科学科 8人)			
・効果度	B	理由: 本事業の継続により、市内公立高校の魅力の浸透に一定の効果을あげている。			
今後の取組み					
・問題点(課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・両校と連携を図りながら入学者増に有効と思われる支援を実施しているものの、目標としている入学者数を確保できていない。 ・学校に求められる魅力の分析を進め、本事業の充実と周知の強化を進める必要がある。 				
・改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・市が中心となり、市内小・中学校、高校、関係者(北空知教育委員会、高校の同窓会等)と連携する中で、さらなる魅力づくりについて検討を進める。 ・北空知管内の小・中学生及び保護者に対して、両校へのきめ細かな魅力をまとめた情報とセットで事業内容を周知し、両校への進路希望者を増加させる。 				
総合評価	* ①: 充実・拡大、②: 現状維持(見直し含)、③: 統合・代替、④: 移管・縮小、⑤: 休止・廃止・完了を含めて記入				
②	理由: 少子化の中では入学者を急増させることは難しいが、本市は北海道教育委員会に対して両校の存続を求めている立場であるとともに、本事業による一定の効果も認められていることから、引き続き事業を継続していく。				

R6事務事業点検評価シート

No. 5

推進項目	生涯学習活動の推進と社会教育の充実		所管課係名	生涯学習スポーツ課社会教育係	
事務事業名	放課後等子どもの居場所確保対策事業				
・開始年度	平成23年度		・見直予定(終了)年度		
年度目標(目的) * 目標値の設定ができれば記入					
放課後等における児童・生徒の安全な居場所を確保するとともに、健全な育成を図るための事業を実施する。					
内容(実績) * 主催(主体)、期日(期間)、会場(対象範囲)、参加実績等を記入 * 目標値の設定があれば、実績値及び達成率も記入					
実施場所: 深川市生きがい文化センター内「子どもの居場所 生き生きスポット」 利用時間: 生きがい文化センター開設日の午後1時から午後5時まで 令和6年度利用者数: 延べ10,806人(前年11,377人) 土曜日の体験教室等 ・アグリカルチャー 5回(前年5回) ・将棋教室・大会 4回(前年6回) ・百人一首教室・大会 7回(前年6回) ・その他体験教室等 19回(前年その他23回) 延べ参加者 492人(前年554名) ※深川市放課後等子どもの居場所確保事業実施要綱によるもの ※予算・決算は土曜日の体験教室等にかかる経費(委託料)のみ記載。 それ以外は生きがい文化センターの指定管理料に含まれている。					
・R6予算額	170千円	・R5予算額	170千円	・R4予算額	170千円
・R6決算額	170千円	・R5決算額	170千円	・R4決算額	170千円
項目別点検評価 * A: 順調である、B: おおむね順調である、C: 一部困難な問題点(課題)がある、D: 困難な問題点(課題)がある					
・達成度	A	理由: 放課後や週末等における子どもの安全な活動場所を確保できた。土曜日の体験教室では、地域や団体・サークルの方などに講師を担っていただくことで、子どもたちに様々な体験事業を提供することができた。			
・効果度	A	理由: 安心・安全な居場所というだけでなく、違った学年の子どもたちの交流の場にもなっている。また、将棋や百人一首など日本の伝統文化、畑作業やスポーツ体験など、子どもたちにとって、より豊かで有意義な土曜日を実現できた。			
今後の取組み					
・問題点(課題)	・地域の協力人材の固定化や高齢化が進んでいる。				
・改善策	・児童・生徒が気軽に利用してもらえるような環境づくりに努める。				
総合評価 * ①: 充実・拡大、②: 現状維持(見直し含)、③: 統合・代替、④: 移管・縮小、⑤: 休止・廃止・完了を含めて記入					
②	理由: 本事業は順調に実施しており、効果を上げていることから現事業を継続していく。				

R6事務事業点検評価シート

No. 6

推進項目	生涯学習活動の推進と社会教育の充実		所管課係名	生涯学習スポーツ課社会教育係	
事務事業名	家庭教育・学社融合推進事業				
・開始年度	平成20年度		・見直予定(終了)年度		
年度目標(目的) * 目標値の設定ができれば記入					
親と子の触れ合いを通し家庭教育に関する親の知識と理解を深め、少年期の心身の発達に即した能力を身につけさせる学習機会を提供する。					
内容(実績) * 主催(主体)、期日(期間)、会場(対象範囲)、参加実績等を記入 * 目標値の設定があれば、実績値及び達成率も記入					
学校と社会教育関係機関・団体が連携・協力して企画実施される学習活動を支援する。 ○支援対象事業 (1)家庭教育学級開設事業(開級式、閉級式等) (2)家庭教育に関する事業(親子でニュースポーツ体験等) (3)児童・生徒が組織的に参加して実施される学習活動事業(納内小フェスティバル等) (4)食育に関する事業(洋菓子作り、加工体験等) (5)児童・生徒と保護者・地域住民・PTA・育成団体などとの学習交流事業(通学合宿、花育等) (6)大人と子どもとの交流学習事業(フラワーアレンジ親子制作、親子で漢字検定チャレンジ等) ○実績 開設数:8校(全小・中学校) 事業開催数:33事業 54回(前年31事業 33回) 参加者:延べ1,304人(前年 延べ1,201人)					
・R6予算額	380千円	・R5予算額	380千円	・R4予算額	380千円
・R6決算額	380千円	・R5決算額	380千円	・R4決算額	337千円
項目別点検評価 * A:順調である、B:おおむね順調である、C:一部困難な問題点(課題)がある、D:困難な問題点(課題)がある					
・達成度	A	理由:家庭教育の意義や役割をはじめ、各学校の創意工夫のもと、幅広いテーマとさまざまな学習形態で事業が実施された。			
・効果度	A	理由:児童・生徒と保護者、地域住民がつながり、開かれた学校づくり、地域に支えられた学校づくりが進められた。			
今後の取組み					
・問題点(課題)	・体験活動などの講師となる地域人材が限られていることや、各学校における実施メニューが固定化しやすい。				
・改善策	・学校間での連携や情報共有を促進し、講師人材の情報共有や効率的な実施を進め、活発な活動を促す。学校の新たなメニュー開発に資する情報を収集し共有するよう努める。				
総合評価 * ①:充実・拡大、②:現状維持(見直し含)、③:統合・代替、④:移管・縮小、⑤:休止・廃止・完了を含めて記入					
②	理由:本事業は順調に実施しており、効果を上げていることから現事業を継続していく。				

R6事務事業点検評価シート

No. 7

推進項目	生涯学習活動の推進と社会教育の充実		所管課係名	生涯学習スポーツ課社会教育係	
事務事業名	市民公開講座				
・開始年度	平成26年度		・見直予定(終了)年度	令和8年度	
年度目標(目的) * 目標値の設定ができれば記入					
学びのきっかけづくりとして、気軽に学習活動や仲間づくりを楽しみながら教養を高め、学びの輪が拡大することで生涯学習に対する理解や関心を高めることをねらいとして実施する。					
内容(実績) * 主催(主体)、期日(期間)、会場(対象範囲)、参加実績等を記入 * 目標値の設定があれば、実績値及び達成率も記入					
第1回: 言語の特徴について考える 令和6年9月7日 参加者数:21人 講師:藤田 守 准教授 第2回: 肥料のお話 令和6年10月19日 参加者数:46人 講師:岡田 佳菜子 教授 第3回: 映画で学ぶ教育を受ける権利 ～全ての人に基礎教育を～ 令和6年11月9日 参加者数:21人 講師:横関 理恵 准教授 第4回: 冬の暮らしを彩る 令和6年11月23日 参加者数:21人 講師:渡部 秀治 教授 第5回: 経済学あれこれ3 ～必ず知っておきたい経済学～ 令和6年12月14日 参加者数:29人 講師:畠田 英夫 教授 ※R6延べ参加者数:138人(前年延べ参加者数:127人) ※会場はいずれも拓殖大学北海道短期大学					
・R6予算額	111千円	・R5予算額	111千円	・R4予算額	111千円
・R6決算額	94千円	・R5決算額	90千円	・R4決算額	110千円
項目別点検評価 * A: 順調である、B: おおむね順調である、C: 一部困難な問題点(課題)がある、D: 困難な問題点(課題)がある					
・達成度	A	理由: 地元の教育的資源である大学の協力のもと、教授等から専門的知識を活かした講話を聞くなどの貴重な学習機会を提供することができた。			
・効果度	A	理由: 市民向けの教養講座として、講話の内容もわかりやすく、学びに対するきっかけづくりとして受講者にも大変好評である。また、道民カレッジと連携することで、カレッジ単位取得の機会を提供した。			
今後の取組み					
・問題点(課題)	・参加者が固定化傾向にあるため、周知等工夫が必要。 ・60歳以上の参加者が約8割となっており、若い世代の参加が少ない。 ・同短大は令和8年度をもって閉校が予定されているため、本事業のあり方について検討が必要。				
・改善策	・拓殖大学北海道短期大学と連携を図りながら、若い世代も参加しやすいような講座内容と周知方法について検討する必要がある。				
総合評価 * ①: 充実・拡大、②: 現状維持(見直し含)、③: 統合・代替、④: 移管・縮小、⑤: 休止・廃止・完了を含めて記入					
②	理由: 本事業は順調に実施しており、効果を上げていることから現事業を継続していく。				

R6事務事業点検評価シート

No. 8

推進項目	文化・スポーツの振興	所管課係名	生涯学習スポーツ課文化・スポーツ係		
事務事業名	文化振興事業				
・開始年度		・見直予定 (終了)年度			
年度目標(目的) * 目標値の設定ができれば記入					
芸術・文化の発表・鑑賞機会を設け、文化活動に対する市民の意識啓発と創造活動の促進・拡充を図る。					
内容(実績) * 主催(主体)、期日(期間)、会場(対象範囲)、参加実績等を記入 * 目標値の設定があれば、実績値及び達成率も記入					
<p>○深川市文化総合芸術祭:市内で活動する文化・芸術団体による発表、展示を行う市民参画型事業。事業の企画運営は深川市文化連盟に委託 展示部門 10月27日～11月3日(中央公民館) 参加14団体332作品 舞台部門 10月27日、11月3日(文化交流ホールみ・らい) 参加23団体201人 入場者数 2,500人</p> <p>○室内楽の夕べ:札幌交響楽団のトップメンバーらと、市内在住ピアニストとの共演によるクラシックコンサート。 9月16日(文化交流ホールみ・らい) 入場者294人</p> <p>○市民文化事業開催助成金:市内施設において市民団体・実行委員会が独自公演、招聘事業を開催する経費の一部を助成するもの。交付団体:5団体(前年7団体)</p> <p>○全道・全国各種文化大会派遣助成 4件(前年0件)</p> <p>○深川市文化連盟活動交付金:社会教育活動団体として、深川市の芸術文化活動を支えている市文化連盟の活動に対する交付金 加盟団体:40団体(376人)(前年43団体 402人)</p> <p>※各種助成事業の採択状況により各年度の予算決算額の増減あり</p>					
・R6予算額	3,474千円	・R5予算額	5,454千円	・R4予算額	6,564千円
・R6決算額	2,984千円	・R5決算額	4,555千円	・R4決算額	5,907千円
項目別点検評価 * A: 順調である、B: おおむね順調である、C: 一部困難な問題点(課題)がある、D: 困難な問題点(課題)がある					
・達成度	A	理由: 深川市文化総合芸術祭と室内楽の夕べを開催し、活動成果を発表する機会や、質の高いクラシック音楽の鑑賞機会を提供することができた。また、市民団体等が主催する文化公演等に対して助成することにより、市民の芸術・文化活動の振興に繋がった。			
・効果度	A	理由: 文化連盟や芸術・文化公演事業等を実施する文化団体等に対して助成・支援したことで、各団体の活性化や若手芸術家の育成の契機となった。			
今後の取組み					
・問題点(課題)	・文化連盟においては従前から加盟団体の高齢化が進んでおり、市民の芸術・文化活動の継続が困難な状況も見られる。				
・改善策	・市内における新たな芸術・文化活動団体の掘り起こしに努める。				
総合評価 * ①: 充実・拡大、②: 現状維持(見直し含)、③: 統合・代替、④: 移管・縮小、⑤: 休止・廃止・完了を含めて記入					
②	理由: 本事業は順調に実施しており、効果を上げていることから、現事業を継続していく。				

R6事務事業点検評価シート

No. 9

推進項目	文化・スポーツの振興	所管課係名	生涯学習スポーツ課文化・スポーツ係		
事務事業名	体育振興事業				
・開始年度		・見直予定(終了)年度			
年度目標(目的) * 目標値の設定ができれば記入					
市民のスポーツ参加を促進し、スポーツ活動により健康増進を図ることができるよう、市民皆スポーツ事業を実施する。					
内容(実績) * 主催(主体)、期日(期間)、会場(対象範囲)、参加実績等を記入 * 目標値の設定があれば、実績値及び達成率も記入					
<p>○全道・全国各種スポーツ大会派遣助成 0件(前年0件)</p> <p>※小中高校生に係る助成は学務課が担当</p> <p>○全道・全国各種スポーツ大会開催助成:全道・全国大会開催7回(前年6回)</p> <p>○深川市スポーツ協会交付金:地域スポーツの普及振興と健康増進の推進組織への支援</p> <p>○深川市スポーツ少年団本部交付金:地域スポーツ少年団の育成・指導と推進組織への支援</p> <p>○各種スポーツ推進委員活動</p> <p>※以下事業の企画運営は、NPO法人深川市スポーツ協会に委託</p> <p>○スポーツ・レクリエーションフェスタ:10月14日(総合体育館) 参加者466人(前年440人)</p> <p>○音江連山登山コース開き:6月9日 参加者32人(前年36人)</p> <p>○ふかがわカップ全道小学生バレーボール優勝大会:11月23日～24日(総合体育館) 参加者1,190人(前年1,060人)</p> <p>○歩くスキーコース造成:12月24日～3月19日(総合運動公園) 利用者延920人(前年941人)</p> <p>○学校体育施設開放事業:4月～令和7年3月 利用者28団体421人(前年31団体473人)</p>					
・R6予算額	1,528千円	・R5予算額	1,127千円	・R4予算額	1,164千円
・R6決算額	509千円	・R5決算額	638千円	・R4決算額	733千円
項目別点検評価 * A:順調である、B:おおむね順調である、C:一部困難な問題点(課題)がある、D:困難な問題点(課題)がある					
・達成度	A	理由:市スポーツ協会やスポーツ推進委員と連携し、子どもから高齢者まで誰もが気軽に参加できるスポーツイベントの開催など、スポーツに親しむきっかけづくりに努めた。また、助成事業や交付金等により、市民の主体的なスポーツ活動の促進が図られた。			
・効果度	A	理由:スポーツ競技者・団体等に対して助成・支援したことで、市民のスポーツ活動促進の契機となっている。			
今後の取組み					
・問題点(課題)	・安全・安心にスポーツに親しむことができる機会の確保。				
・改善策	・気軽に参加できる事業開催方法の検討。				
総合評価 * ①:充実・拡大、②:現状維持(見直し含)、③:統合・代替、④:移管・縮小、⑤:休止・廃止・完了を含めて記入					
②	理由:本事業は一定の効果を上げていることから、現事業を継続していく。				

R6事務事業点検評価シート

No. 10

推進項目	文化・スポーツの振興	所管課係名	生涯学習スポーツ課文化・スポーツ係		
事務事業名	スポーツ合宿招致				
・開始年度	平成7年度	・見直予定(終了)年度			
年度目標(目的) * 目標値の設定ができれば記入					
積極的な合宿招致活動を推進することにより、市民のスポーツへの興味・関心や参加意欲を高めるとともに、スポーツ施設の有効活用とスポーツの普及振興、交流人口の増加や市の知名度アップなど多くの効果が得られるため、スポーツ合宿を通じた活力あるまちづくりと地域経済の活性化を図る。					
内容(実績) * 主催(主体)、期日(期間)、会場(対象範囲)、参加実績等を記入 * 目標値の設定があれば、実績値及び達成率も記入					
これまで来市している道外の実業団及び大学陸上中長距離チームへの訪問や、深川市のほか道内5会場で開催されるホクレン・ディスタンスチャレンジ大会などにおいて合宿招致活動を実施し、エフパシオを拠点施設とした合宿の受け入れ対応を行った。 ・合宿実績:実業団14チーム 大学等 278チーム 計292チーム 実人数7,986人 延宿泊数14,627泊 (前年:実業団19チーム 大学等 272チーム 計291チーム 実人数9,758人 延宿泊数16,872泊) ・ホクレン・ディスタンスチャレンジ深川大会 7月17日 出場選手340人 観戦者500人 配信閲覧82,000回					
・R6予算額	8,070千円	・R5予算額	12,746千円	・R4予算額	1,383千円
・R6決算額	7,333千円	・R5決算額	11,510千円	・R4決算額	1,061千円
項目別点検評価 * A: 順調である、B: おおむね順調である、C: 一部困難な問題点(課題)がある、D: 困難な問題点(課題)がある					
・達成度	A	理由: 前年度に比べ宿泊数は減少したが、合宿数についてはコロナ禍以前よりも高い水準を維持することができた。引き続き、北海道を代表するスポーツ合宿のまちとしてのPRと施設整備に努めていく。			
・効果度	A	理由: ホクレン・ディスタンスチャレンジ深川大会の開催は、市民のスポーツ意識の向上とスポーツの普及振興、施設の有効活用、合宿地としての知名度アップ、地域経済の活性化など多様な効果に繋がっている。			
今後の取組み					
・問題点(課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・道内外の実業団や大学チームに合宿地として定着していただけるよう、各チームのニーズを把握するなど、きめ細かな対応が必要。 ・チームのニーズに合う宿泊施設の不足及び競技施設等の老朽化。 ・年間を通じた合宿招致事業に取り組む必要がある。 				
・改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページを活用したスポーツ合宿地としての宣伝のほか、ホクレン・ディスタンスチャレンジ深川大会の開催や、新たなチームの合宿実施に向けて、積極的な合宿招致活動を継続するとともに、既に深川で合宿をしているチームへのアンケートなどを行い、ニーズの把握に努め、合宿チーム数の増加に努める。 ・令和3年度に教育研修用資材やスキーワックスルームを整備したエフパシオを最大限に周知・活用することで、冬季における合宿を掘り起こし、通年での宿泊者増につなげる。 				
総合評価 * ①: 充実・拡大、②: 現状維持(見直し含)、③: 統合・代替、④: 移管・縮小、⑤: 休止・廃止・完了を含めて記入					
②	理由: 本事業は順調に実施しており、効果を上げていることから、現事業を継続していくとともに、文化事業の合宿招致にも取り組む。				